

バリアフリー社会を考えるシリーズ

バリアフリーの考え方の広がりとともに、障害者の人たちが社会参加するのは当然という考え方が広がりつつあります。しかし街を歩けば、まだまだ障害者の行動を妨げるバリアがたくさんあります。障害者に対する差別

意識や偏見の眼差しも、その一つです。具体的な事例をドキュメントし、若者たちの擬似体験を通して、バリアフリー社会を目指し、バリアを取り除いていこうという意識を高めます。

車いすの人に出会ったら

上映時間 11分

ビデオ版 56,000円

価格は税抜 (C#3477)



目の不自由な人に出会ったら

上映時間 11分

ビデオ版 56,000円

価格は税抜 (C#3478)



耳の不自由な人に出会ったら

上映時間 11分

ビデオ版 56,000円

価格は税抜 (C#3479)



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

3巻セット 150,000円

価格は税抜 (C#3480)

障害のある人とのふれあいと人権

—今まで声をかけられなかったあなたへ—

内 容

安心して暮らせる社会を築いていくためには、健常者と障害者が助け合うことが重要です。街で障害者に会ったとき、どのように行動したら良いのか、実際の場面を見ながら考えていきます。

目の不自由な人と出会った場合

周囲の様子が分からない視覚障害者は、不安を抱えています。例えば横断歩道では、前方から「何かお手伝いすることありますか？」などと一声かけましょう。その他、駅のホームやエスカレーターだけでなく、トイレでも便器の向きや洋式か和式などを教えることも助け合いのひとつです。

また、点字ブロックは視覚障害者にとって歩くための重要な手掛かり。点字ブロックの上に自転車、バイクなどを駐輪したり、看板などを置かないように。道路などで、前方に障害物がある場合、わかりやすく知らせることが大切です。



耳の不自由な人と出会った場合

見た目は健常者と変わらないために、誤解されることの多い聴覚障害者。「あの人は聞こえないんだな、と気づいてくれば嬉しいです」と聴覚障害者のひとは語ります。

駅などで尋ねられたら積極的に教えます。言葉は一音一音区切らず、まとまりで区切って、身振り手振りで話しかけます。

聴覚障害者といっても、ろう者、難聴者では聞こえ方が違います。補聴器を付けた難聴者と話すときは、正面からゆっくりはっきり、身振りをつけながら普通の声で話します。どうしても伝わらないときは、短く要点を書いて伝える筆談も有効です。



車いすの人と出会った場合

車いすを利用している人が街に出ると、段差、階段、自動ドアなど様々な困難に遭遇します。困っているのを見かけたら、迷わず手を貸しましょう。

また、車いすの人は、自転車、歩きたばこをしている人、沢山の荷物を抱えている人が近くを通過するだけで恐怖を感じます。車いすの横を通るときは、十分な注意が必要です。

もし、震災などの災害が起きたとき、障害者もいることを忘れずに。迷わずに声をかけて助け合います。お互いが違いを認め合い、助け合う社会を気づくために、障害者のことをもっと理解していくことが大切です。



企画・制作・・・東映株式会社 教育映像部

2008 年作品

d.

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631

関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026

広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066

福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101